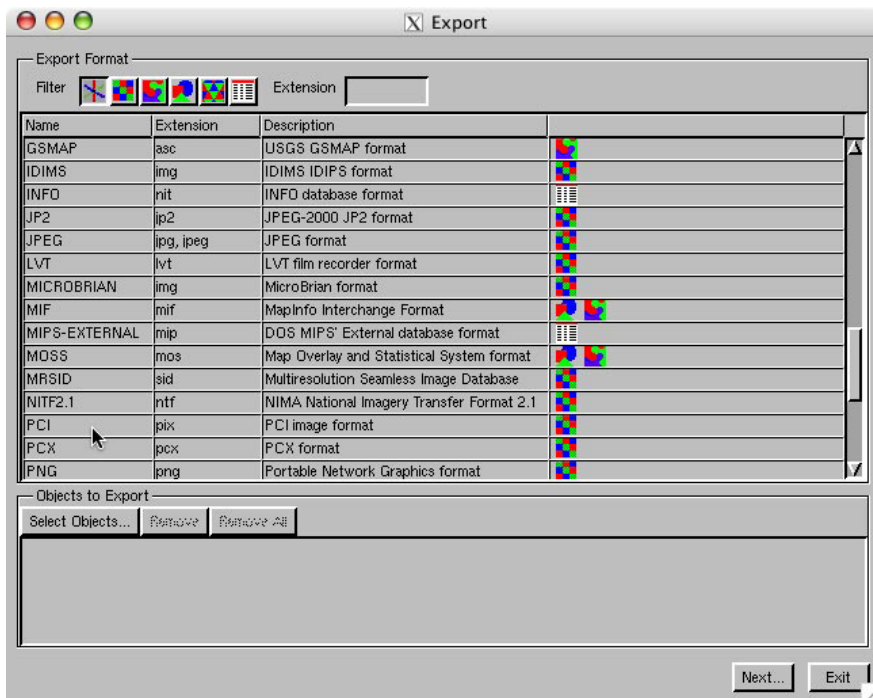


# 外部ファイルの作成



TNTmips のエクスポート処理ではプロジェクトファイルのデータを多くの種類のラスタ、ベクタ、シェイプ、CAD、TIN、データベース等の外部フォーマットのファイルに変換できます。エクスポート処理は TNTmips および TNTedit で可能ですが、TNTview や TNTlite にその機能はありません。

ファイルかフォーマットの2つの方法で指定ができた TNTmips のインポート処理とは違い、エクスポート処理ではまず出力ファイルフォーマットを選ぶ必要があります。ファイルフォーマットを選ぶことで選択可能なオブジェクトタイプが決定します。ベクタや CAD オブジェクトは数種類のファイル形式へエクスポートできます。また、VRML へのエクスポートはラスタ、ベクタ、TIN を入力として使えます。複数のオブジェクトを選んで

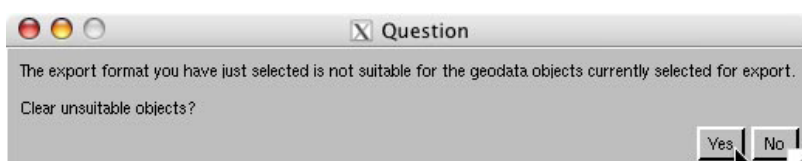
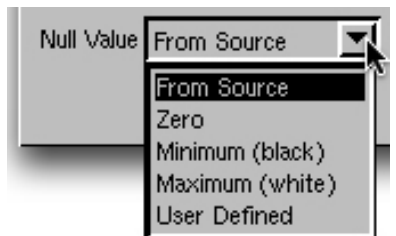
エクスポート可能ですが、全てが同じオブジェクトタイプである必要があります。ラスタ出力では選択できるオブジェクトの範囲が狭くなります (例えば、PCI へエクスポートするには 16bit または 24bit コンポジットカラーのラスタオブジェクトは選択できません)。

エクスポート処理では対応している全フォーマットのリストがまず開きます。このリストは名前、拡張子、説明の各見出しカラムをクリックすると並び替えできます。エクスポートしたいオブジェクトタイプに対応するアイコンを選ぶとフォーマットのリストが短くなり、選択しやすくなります。同様に、出力フォーマットの拡張子を入力するとリストが減ります。その拡張子のファイルが 1 種類しかなければ、3 文字全てを入力すると、リストは 1 つだけになります。しかし、拡張子の中には .img のように複数のフォーマットに関係しているものもあります。

エクスポートするオブジェクトを選択せずに [次 (Next)] ボタンをクリックすると、オブジェクトを選択するようプロンプトが出ます。エクスポートのフォーマットが指定されると〈エクスポートパラメタ (Export Parameters)〉ウィンドウの内容が決まります。選択したフォーマットにジオリファレンス情報が含まれない場合は、どのようにするかをユーザが指示します。ラスタにはヌル値や圧縮に関連した選択肢もあります。1 回のエクスポートで選択するオブジェクトは同じエクスポートパラメタに従う必要があります。例えば、複数のベクタを、ArcView のシェイプファイル形式のようにスタイルと 1 個の属性テーブルだけがサポートされているフォーマットにエクスポートする場合、スタイル割当テーブルと属性テーブルは全ベクタオブジェクトで同じ名前であればなりません。〈エクスポートパラメタ〉ウィンドウでヌル値として [ソースに従う (From Source)] が指定されている場合は、エクスポートする複数のラスタのヌル値はラスタ毎に違っていてもかまいません。



エクスポートパラメタの例。上がラスタのジオリファレンス、下がヌル値の選択肢の例。



オブジェクトを選択した後にエクスポートするフォーマットを変更したい場合や、単に他のエクスポートを行おうとして前のエクスポート処理でのオブジェクトを削除し忘れていた場合や、選択したオブジェクトに対して不適切なフォーマットを新たに選択する場合、矛盾するオブジェクトをリストから消去するかどうか聞かれます。

エクスポートパラメタの別の例

